最新IT動向と企業情報システムへのインパクト

主催：野村総合研究所 2011年5月24日（東京）

野村総合研究所（NRI）は、IT（情報技術）の最新動向に関するITアナリストの調査研究の成果を公開する「ITロードマップセミナー」を開催している。今回は「最新IT動向と企業情報システムへのインパクト」というテーマで講演を行い、355人にご参加いただいた。セミナーは4つのセッションで構成され、今後の企業情報システムに大きな影響を与えると予想される技術の動向とビジネスへのインパクトについて展望した。

第一のセッションでは、イノベーション開発部の城田真琴が「ビッグデータ時代の到来——新たなサービス機会と実現のための基盤技術」と題して、ビッグデータがもたらす新たなサービスの可能性とテクノロジーの潮流について解説した。城田は、従来に比べより多くの複雑なデータを、より安価によりスピーディに分析できる環境が整いつつあることから、顧客の属性情報を取得可能な顧客接点を有する企業にとって、ビッグデータの活用は競争優位に直結すると指摘した。

続いて同部の亀津敦が「進化するソーシャルメディアとソーシャルCRM戦略の次なるステップ——リスニング（傾聴）から消費者理解・エンゲージメントへ」と題して、企業がソーシャルCRM（顧客関係管理）の次なるステップに取り組む際に検討すべき指針と実現技術について解説した。亀津は、「Twitter（ツイッター）」の普及により、日本の企業もソーシャルメディアを消費者へのリーチ拡大に利用し始めたことについて触れた。また、今後ソーシャルCRM戦略の潮流は、「Facebook（フェイスブック）」型の消費者と密につながるプラットフォ

ーム上でのリレーション管理と既存チャネルへの送客に向かうと指摘した。

次に、同部の田中達雄が「クラウド時代のアプリケーション構築——SaaS利用拡大に伴う課題と解決に向けたアプローチ」と題して、SaaS導入時の課題や解決に向けたアプローチについて解説した。田中は、今後アプリケーションにおけるSaaS比率は増加していくと指摘した。また、企業にとって複数のSaaSを利用する機会が増加することで、クラウド仲介サービス（CSB）が台頭していくと予測した。

最後のセッションでは、同部の武居輝好が「スマートシティにおけるITの役割——ITで実現する次世代社会インフラ」と題して、社会インフラに対しITがどのような役割を担い、寄与していくのかを展望した。武居は、ITの持つ情報の収集、統合、分析の3つの機能が社会インフラに適用されることで、都市活動の可視化や都市基盤の自動最適化が実現されていくと指摘した。

出席者に対するアンケート結果によると、本セミナーへの参加目的は、「最新情報技術の動向調査」と「情報技術全般の大きな潮流の把握」が特に多い。こうした期待に応えるべく、今後も年2回のITロードマップセミナーの開催を予定している。

なお、イノベーション開発部のITアナリストの調査研究の成果は、東洋経済新報社から『ITロードマップ2012年版——情報通信技術は5年後こう変わる！』と題して2011年末に刊行予定である。

本セミナーについてのお問い合わせは下記へ
ITロードマップセミナー事務局
電子メール：it-rm-qa@nri.co.jp